

菜の花が世界を救う!

菜種栽培とBDF生産の手引き



発行元

 日本労働者協同組合 (ワーカーズユープ) 連合会 センター事業団
企業組合 労協センター事業団

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-1-2 光文社ビル6F

TEL:03-6907-8030 FAX:03-6907-8031

発行日:2011年3月10日

この小冊子は農林水産省「平成22年度バイオ燃料地域利用モデル実証事業」補助金で作成しました。



目次

● はじめに	1
日本労働者協同組合連合会 理事長 永戸 祐三	
● 第1章 菜の花プロジェクトがめざすもの	3
1) ソーシャル・エコ・ファーム運動	
日本労働者協同組合連合会 顧問 古谷 直道	
2) 菜の花プロジェクトは「地産・地消」で社会連帯を広げる	
さいたま労協クラブ 会長 内野 富夫	
● 第2章 菜の花プロジェクトの進め方	6
耕地の確保・人の輪・地域との協同	
労協センター事業団 関東東事業本部 青山 博明	
● 第3章 菜種栽培の手引き	8
なたねの栽培、そのいろは	
日本大学生物資源科学部 准教授 川手 督也	
● 第4章 BDF生産のシステムと活用法	17
廃天ぷら油で車を走らせる	
梁谷商店グループ 株式会社BDF 松尾 春樹	
● 第5章 各地からの菜の花だより	21
「地球環境の危機を救う」に大志をもって	
秋田運送の取り組み	
● あとがき	30
● 資料	31

ろうきょう菜の花プロジェクト全国ネットワーク、参加のご案内

今、地球規模での環境破壊が危惧され、地球温暖化の加速と気候変動や人口増加による食料危機、さらには化石燃料の枯渇・高騰によるエネルギー危機が叫ばれています。

こうした地球規模の食料・環境問題の中で「ろうきょう菜の花プロジェクト」は、私たちの社会貢献・社会連帯の立場から、食・農・環境事業の一環として、また、若者の就労支援という喫緊の課題と結び付け、仕事おこしと向き合う中で開始しました。

耕作放棄地を活用しての「菜の花」栽培は、日本の農村風景の再現と共に人々の心を和ませ、観光をはじめ地域おこしの力となっています。菜の花の実・菜種の栽培と菜種油の生産は“なたね”の自給率のみならず耕作放棄地活用による食料自給率を向上させ、廃食用油回収とBDF(バイオディーゼル燃料) 精製を結び付けることで資源循環型社会の実現と環境保全への実践的取り組みでもあります。

この事業は、今や「菜の花プロジェクト・バイオマス事業」として広がり、労協・ワーカーズコープとして、その本来の目的である仕事おこしと新しい就労の機会を創造するという課題への挑戦でもあります。

この「ろうきょう菜の花プロジェクト」運動を全国各地に広げ、地域社会のネットワークづくりと協同と共生の社会づくりを目指し、「ろうきょう菜の花プロジェクト全国ネットワーク」を結成しました。

ぜひ本会にご入会いただき、共に農村漁村の再生と新たな仕事おこしをめざして「菜の花プロジェクト」を全国に広げていきましょう。

本会では、菜の花プロジェクトを通じ、遊休農地に菜の花を植え、日本古来の農村景観を再現するとともに、菜種生産による耕作放棄地の積極的活用と農耕地の維持、菜種油の自給率拡大をはかりながら、国産菜種油の生産・消費・廃食用油回収・BDF製造という地域の資源循環システムの確立と、社会連帯活動として、地域社会とのネットワークづくりと協同と共生の社会づくりを目的とし、下記を実施します。

- ①菜の花の栽培を全国各地に展開し、統一した菜種油の製造・消費活動
- ②耕作放棄地の積極的活用と農耕地の維持活動
- ③菜の花プロジェクトを通じた地域・団体等のネットワーク推進活動
- ④農業を通じ、農家との連携及びまちづくり活動
- ⑤地域の資源循環システムの開発と推進活動
- ⑥協同労働を中心とした社会連帯活動の推進
- ⑦情報の共有と研究・研修活動
- ⑧仕事おこしと新たな就労の機会の創出
- ⑨環境保全活動への貢献
- ⑩その他、本会の目的の達成に必要な活動